

研究課題「尿流動態検査における排尿筋収縮障害、膀胱出口部閉塞の臨床的特徴の解明と人工知能（AI）を用いた新規診断法の開発」についての情報公開

1. 研究の対象

名古屋大学医学部附属病院に2010年1月から2018年12月までに下部尿路症状を主訴に受診し、質問票評価ならびに尿流動態検査評価を受けられた方

2. 研究目的・方法・研究期間

おしっこが出にくい、時間がかかるなど下部尿路症状を来す原因には、前立腺肥大症や膀胱頸部狭窄症による膀胱出口部閉塞あるいは膀胱自身の収縮力が低下する排尿筋収縮障害などが考えられますが、その区別には、尿道にカテーテルを通して行う尿流動態検査を必要とします。今回我々は、そういった侵襲的な検査を行わなくても、自覚症状質問票の結果や体に負担のかけない尿流測定検査、超音波検査所見から、下部尿路機能障害の原因を診断できないかと考え、これまでの当院で行った検査結果を再評価しようと考えました。さらにはその結果をもとに人工知能（AI）に学習させることで、より普遍的に、かつ正確に下部尿路機能障害の病態を診断できる新規診断法を開発することを目的としています。

具体的な方法としては、診療録に記載される情報（身体的特徴、採血結果、尿検査結果、下部尿路症状に関する症状質問票、尿流動態検査結果、治療歴の項目）を参照させていただきます。研究のために新たに検査を追加するなど、患者さんの負担となるようなことは行いません。また得られた情報は、すべて匿名化をしたうえで解析を行います。また集められた情報の一部は、名城大学理工学部との共同研究による人工知能を用いて解析し、より簡便に、下部尿路機能障害の原因を診断できないか検討させていただきます。研究期間は、生命倫理委員会での研究実施承認日から2022年3月31日を予定しております。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

下記の情報を匿名化した上で研究に用います。

- ・患者背景：性別、年齢（生年月日）、体重、既往歴、合併症、主訴、初診日 等
- ・バイタルサイン：血圧、体温、体重、脈拍 等
- ・血液検査：ヘモグロビン、白血球数、赤血球数、血小板数、腎機能、肝機能 等
- ・尿検査：比重、pH、尿蛋白（定性）、尿糖（定性）、潜血、尿沈査 等
- ・生理検査所見：腹部超音波による前立腺体積、前立腺膀胱突出度 等

- ・下部尿路症状質問票
- ・尿流動態検査所見、尿流測定検査所見 等

4. 外部への試料・情報の提供

名城大学理工学部研究室へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態かつ個人情報を匿名化された形で行います。対応表は、本学の研究責任者が、保管・管理しますので外部に流出することはありません。

5. 研究組織

以下の体制で研究を行います。

(1) 研究代表者（所属・職名・氏名）

名古屋大学医学部附属病院泌尿器科 講師 松川宜久

(2) 研究責任者（所属・職名・氏名）

名古屋大学医学部附属病院泌尿器科 講師 松川宜久

(3) 研究分担者（所属・職名・氏名）

名古屋大学大学院医学系研究科総合医学専攻病態外科学 教授 後藤百万

名古屋大学大学院医学系研究科泌尿器科学 特任教授 山本徳則

名古屋大学医学部附属病院泌尿器科 病院講師 舟橋康人

名古屋大学医学部附属病院泌尿器科 助教 馬嶋剛

名古屋大学医学部附属病院泌尿器科 病院助教 松尾かずな

(4) 共同研究者（所属・職名・氏名）

名城大学理工学部 情報工学科・教授 高橋友一

名城大学理工学部 情報工学科・教授 山田啓一

名城大学理工学部 情報工学科・准教授 亀谷由隆

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

下記、研究担当者 松川宜久までご連絡ください。

研究事務局：名古屋大学医学部附属病院 泌尿器科

名古屋市昭和区鶴舞町65

電話番号 052-744-2985

FAX 番号 052-744-2319

研究責任者、研究代表者：

名古屋大学医学部附属病院泌尿器科 講師 松川宜久